

## 「有藻性イシサンゴの基礎と繁殖」

日時：平成 29 年 5 月 19 日（金）15:00～16:30

場所：高知大学物部キャンパス 5-3 教室

講師：目崎 拓真 先生（公益財団法人黒潮生物研究所 主任研究員）

### 要旨

日本は、有藻性イシサンゴ（以下「サンゴ」）などの石灰質の遺骸でできたサンゴ礁地形のある沖縄県から、分布の北限である千葉県や新潟県まで、多様な環境でさまざまな「サンゴ」を目の前の海で見ることができる世界的にも稀な海域をもつ国である。サンゴは国内で 400 種程度が知られており、その種数は低緯度の温暖なサンゴ礁海域で多く、緯度が上がるにつれて漸減する。これは主に南方系種が適正水温から外れることで順次出現しなくなることによる減少と思われるが、高緯度海域に適応した特有な種への置き換わりも少なからず見られる。

高知県沿岸では沖を流れる黒潮の影響を強く受け、サンゴ礁地形のない温帯的な環境ながら南方系サンゴと温帯性サンゴの両方が野外で観察できる特徴がある。さらに近年の海洋温暖化で、南方系サンゴ種の加入や越冬による種数の増加、より浅い範囲へのサンゴの進出、海藻からサンゴへの劇的な生態系のシフトが野外で観察されている。その一方で、サンゴを食べるオニヒトデの増加、サンゴ礁域で壊滅的な被害をもたらすことで知られている高水温による白化現象などさまざまな攪乱も生じている。このように高知県の海は、今まさに起こっている環境変動によるサンゴの変化などを観察できる絶好のフィールドである。サンゴを通じてこれらの現象を捉えることで、より身近に環境の「変化」を体感し学べるものと考えている。

本講義では、サンゴの基礎的な生態についても解説するとともに、上述した高知県のサンゴの周辺で起こっている変化や問題について解説する。加えて、サンゴの増加に寄与する繁殖行動についても多くの知見が得られているので合わせて紹介したい。